

ていさつ



こぼれ話

◇著者から◇

「いつまでも絵を描くの好きなよ」とお話しくださった大滝さん。今年、山田養蜂場主催の「第15回ミツバチの童話と絵本のコンクール」絵本の部で審査員特別賞を受賞されたという作品を見せていただきました。大滝さんが描く女の子は柔らかでふっくらし、とても豊かな表情を持っていて、大滝さんの中にある「子ども」のイメージがそのままそっくり表れているように感じました。大滝さんがこれまで子どもたちと過ごした日々や、当時の皇太子殿下との思い出、「平和」への思いや願い……絵本のページをめくるたびに、大滝さんの歩んでこられた人生の一場面とその温かいお人柄に触れるような思いがし、じんわりと温かいものが込み上げてきました。

インタビューにも登場する大滝さんのお母様が、1955年発行の『幼児の教育（倉橋惣三先生追悼号）』に「故倉橋先生をおぼびして」という題（「州代」さんに改名される前の「晴」さんというお名前）で寄稿されていたことを永倉さんから伺い、早速読んでみました。倉橋惣三先生は27～28歳（奇しくも今の私と同じ年）というお若いころに附属幼稚園に着任され、「実に明瞭で、わかり易く、ユーモアに富み、快く笑いながら心深く刻みつける」という独特のご指導をされていたとありました。インタビューで大滝さんが語ってくださった倉橋先生像とぴったり重なり、私にとっては本の中の、あるいは歴史の中の偉大な人、という位置付けであった倉橋先生が、確かにそこにいらしたのだという実感を伴って少し近しく感じられました。大滝さんは何度も「不思議な巡り合わせ」とおっしゃいましたが、そのような「意味のある偶然」に生かされている日々に、心から感謝したいと思います。

(山下紗織)

本の紹介

『わたしの絵本体験』 松居 友 教文館 2013年

「もしも、絵本の中に子どもに語りかけたい大切なものをみつけたら、その絵本を心をこめて読んであげて欲しいのです。絵本が心をこめて読まれるとき、その世界は必ず子どもに伝わります。良い絵本は、大人の心も子どもの心も、共に感動でつつみます。蓮の葉に宿る、一滴の水玉に全宇宙が宿るように、絵本にも宇宙が宿ります。価値ある絵本を見つけて下さい。見つけたら、子どもといっしょに手をつないで、絵本の世界に入って行って下さい。絵本は、愛の体験です。」

本書は1986年に出された同タイトルの復刊版である。『昔話とこころの自立』（1994）、『昔話の死と誕生』（1988）も同じく教文館から復刊されている。併せお読みいただきたい。(KT)

本の紹介

『ちいさいモモちゃん』（2011年文庫版）
松谷みよ子 講談社文庫 2011年

6冊からなる「モモちゃんシリーズ」の2冊ずつが1冊に収められており、その1冊目が本書。「ちいさいモモちゃん」（1964）と「モモちゃんとプー」（1974）が収録されている。文庫本化は二度目だが、編集者いわく「今回は二十代以上の方に読んでいただきたい」と文庫化されたとのことで、確かに大人っぽい作りになっている。

酒井駒子による挿絵、角田光代、高橋源一郎、東直子という当代人気作家による、詩情も私情もあふれる(?)解説。かつて私自身も好きで何度も読み、子どもたちにも何度も読んで聞かせたこのシリーズ。今回まんまと、「そうか、この有名人たちもみんなモモちゃんとアカネちゃんが好きだったんだな」と、しみじみと「よしよし」と思わされてしまう。作中の「おいしいものすきなくまさん」はいわば「最高の隣人」、私の目標とするところでもある。(KT)